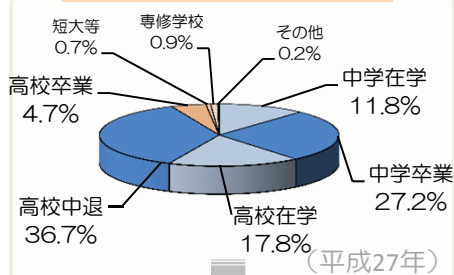


# 法務省資料

# 少年院における修学支援の充実化

## 背景

### 新収容少年の教育程度



中卒者、高校中退者が64%

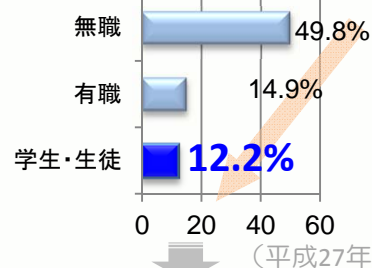
### 出院者の修学・就労状況

(総数2,879人(H27))

復学・進学が決定	205人 (7.1%)
進学を希望したが、未定	446人 (15.5%)
就職が決定	883人 (30.7%)

希望するが、進学できず  
出院する者が一定数存在

### 仮退院者の再処分率(※)



学生・生徒の再処分率は低い。

(※) 少年院仮退院者で保護観察期間中に再非行により新たな保護処分等を受けた者の比率

**修学支援の重要性は非常に高い!**

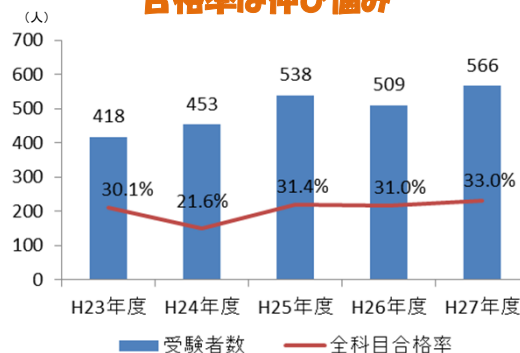
## 現状

- 高校卒業程度認定試験の受験機会の付与
- 民間学力試験の実施 (義務教育指導実施庁)
- 修学支援ハンドブックによる修学への動機付け
- 民間企業に委託して希望する学校情報の提供
- 高校卒業認定試験受験コース指定 (新潟・多摩)



### 少年院における高等学校卒業程度認定試験受験者数及び合格率の推移

受験者数は増加しニーズは高いが合格率は伸び悩み



## 課題

高等学校卒業程度認定試験の指導体制 (講師・教材) が不十分

学びの継続や修学支援に資する学校関係者との連携が不十分

進学を目指すに当たって、自己の学力水準を確認する機会が不足

## 対策

高校卒業程度認定試験の集中的受験指導を全国的に展開

学校関係者との連携の更なる強化

民間学力試験の実施対象者拡大



# 刑事施設における改善指導等

## 現状

◎刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律の施行

▶受刑者に矯正処遇（作業，改善指導，教科指導）を義務付け

## 処遇調査

刑の確定後，心理学等の専門的知識を有する職員等により，受刑者の資質と環境の調査を実施し，処遇の目標・内容等(処遇要領)を策定。

《調査項目》

- (1)精神状況，(2)身体状況，(3)生育歴，教育歴及び職業歴，(4)暴力団その他の反社会的集団への加入歴，(5)非行歴及び犯罪歴並びに犯罪性の特徴，(6)家族その他の生活環境，(7)職業，教育等の適性及び志向，(8)将来の生活設計，(9)その他受刑者の処遇上参考となる事項

## 改善指導

### ■一般改善指導

### ■特別改善指導

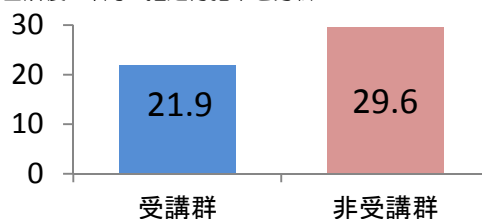
- R1** 薬物依存離脱指導
- R2** 暴力団離脱指導
- R3** 性犯罪再犯防止指導
- R4** 被害者の視点を取り入れた教育
- R5** 交通安全指導
- R6** 就労支援指導



### ▶▶ 効果検証の実施

◎性犯罪再犯防止指導の効果検証

- H19.7.1～H23.12.31に出所した性犯罪受刑者2,147名
- 出所後3年間の推定再犯率を分析



プログラムには一定の再犯抑止効果あり

各種指導の受講開始人員（人／年度）

	H25	H26	H27		H25	H26	H27
<b>R1</b>	6,741	6,694	7,006	<b>R4</b>	1,028	964	860
<b>R2</b>	608	556	431	<b>R5</b>	1,701	2,036	1,739
<b>R3</b>	521	492	497	<b>R6</b>	2,923	3,290	3,684

## 教科指導

- 補習教科指導 小学校・中学校の教科の内容に準じた指導
- 特別教科指導 主に高校程度の教科の内容に準じた指導

## 課題

昨今の多様な受刑者の問題性に適切に対処する必要

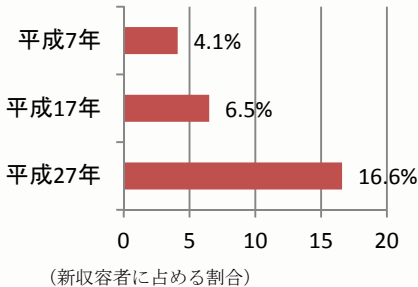
## 対策

- 各種指導プログラムの充実
- 個々の特性を定量的・客観的に測定する処遇調査のツール（リスクアセスメントツール）の開発
- 指導者の確保・育成
- 効果検証の実施による指導の充実
- 民間自助団体，地方公共団体その他の関係機関との連携強化 等

# 在院者の特性や課題等に応じた処遇の充実化

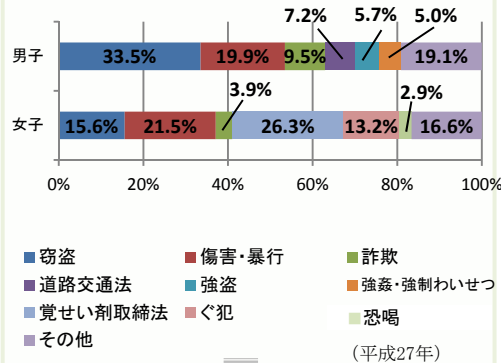
## 背景

### 発達障害や知的障害等を有する在院者の比率



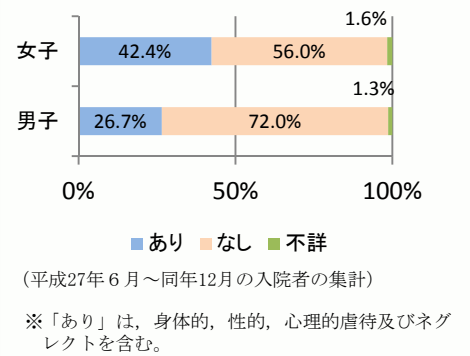
発達障害や知的障害を有する在院者の比率は上昇

### 新収容者の非行名別割合



薬物や暴力など非行内容等に応じた指導が必要

### 被虐待体験を有する在院者の比率



被虐待体験等を背景とした女子少年特有の問題への配慮が必要

## 様々な事情を抱えた在院者への働き掛けが必要

## 現状

- 少年鑑別所のアセスメント結果を活用した個人別矯正教育計画の策定
- 非行内容等の事情に応じた特定生活指導の実施
  - 被害者の視点を取り入れた教育
  - 薬物非行防止指導
  - 性非行防止指導
  - 家族関係指導
  - 暴力防止指導
  - 交友関係指導
- 発達上の課題を有する在院者に対する処遇のガイドラインの活用
- 女子少年の特性に配慮したプログラムの開発、試行
- きめ細かな指導を実施するため複数指導体制を導入

## 課題

対象者の特性に応じたきめ細かな指導内容・指導体制の充実が必要

## 対策

処遇効果の検証  
プログラムの計画的な改訂

非行内容等に応じた指導の充実

複数指導体制の拡大  
職員の処遇力向上

関係機関等と連携した指導・支援の実施体制の構築

# 少年保護手続を縦貫した継続的な鑑別の実施

## 鑑別とは

### 処遇方針を示す羅針盤

どうして  
非行に及んだのか？  
(問題点の解明)

どうすれば  
立ち直れるのか？  
(処遇指針の提示)



面接

心理  
検査等

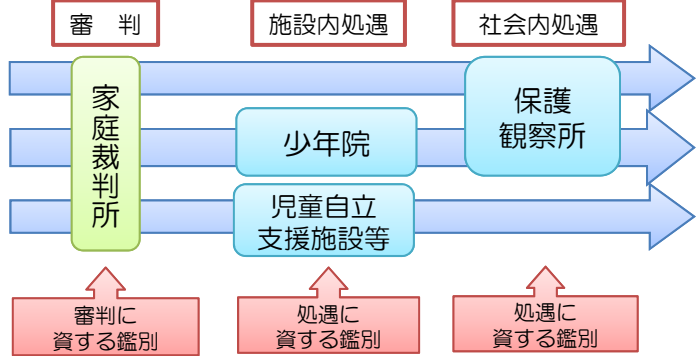
行動  
観察

診察

## 課題

各処遇段階での少年の問題性の  
見極め・処遇方針の見直しが必要

## 対策



継続的・機関横断的な鑑別により  
再非行防止に効果的な指導の実現

# 健全な育成のための支援の推進

## 現状

- 生活態度に関する助言・指導  
挨拶、整理整頓、身だしなみ、  
言葉遣い等
- 情操のかん養に資する活動  
図書、レクリエーション、  
絵画制作等
- 健全な社会生活への適応を支援する取組  
学習支援、就労支援、  
スポーツテスト、  
各種講話等



## 課題

- 在所者のニーズ・希望を踏まえた  
機会の提供
- 特性等に応じた的確な助言・援助

## 対策

- 地域の社会資源の把握
- 関係機関等とのネットワークの  
構築と連携

健全な育成に資する  
学習等の機会の充実・多様化

# 地域援助の推進

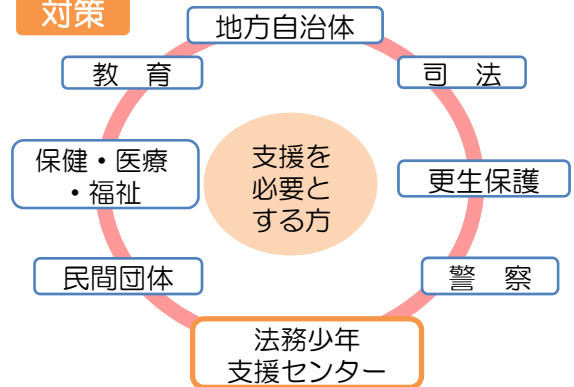
## 現状

- 子供や保護者への心理相談
- 知能検査・性格検査等の実施
- ケース検討会への参加
- 研修・講演・法教育への講師派遣 等

## 課題

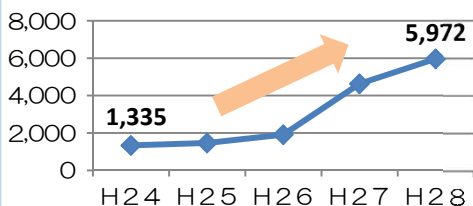
増大・多様化する  
ニーズへの対応

## 対策



関係機関と連携した  
効果的な援助の推進

地域援助実施件数



# 法務省式ケースアセスメントツール(MJCA)の概要

## 開発経緯

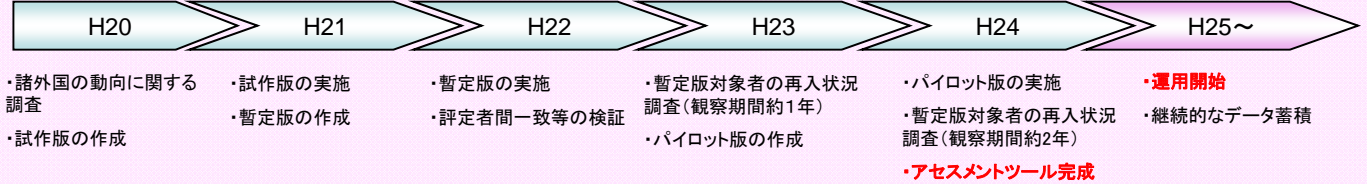
### ◆ 背景

◇日本: これまで再非行の可能性や教育上の必要性の把握に特化した統一的手法は設けられていない。

◇欧米等: 再非行の可能性等を把握するいわゆる「リスク・ニーズアセスメントツール」の開発・活用が進められている。

新たな調査方式を導入することにより、**鑑別業務の充実・鑑別水準の向上に寄与**

### ◆ 開発経過

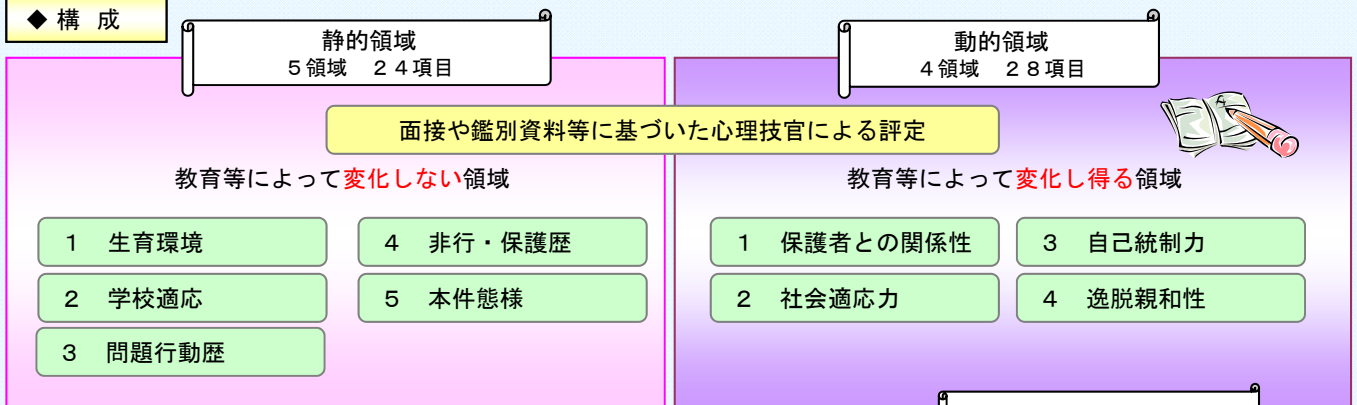


## アセスメントツールの概要

### ◆ 位置付け

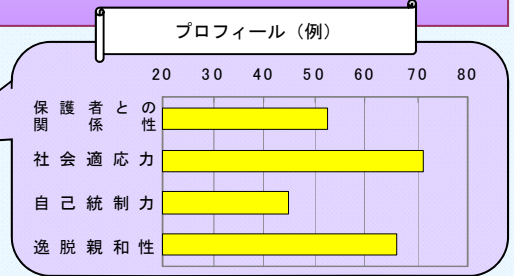
・再非行の可能性及び教育上の必要性を定量的に把握するための鑑別実施上の**支援アセスメントツール**  
 ・実務の観点も踏まえた、統計的な妥当性、信頼性の検証を経たアセスメントツール

### ◆ 構成

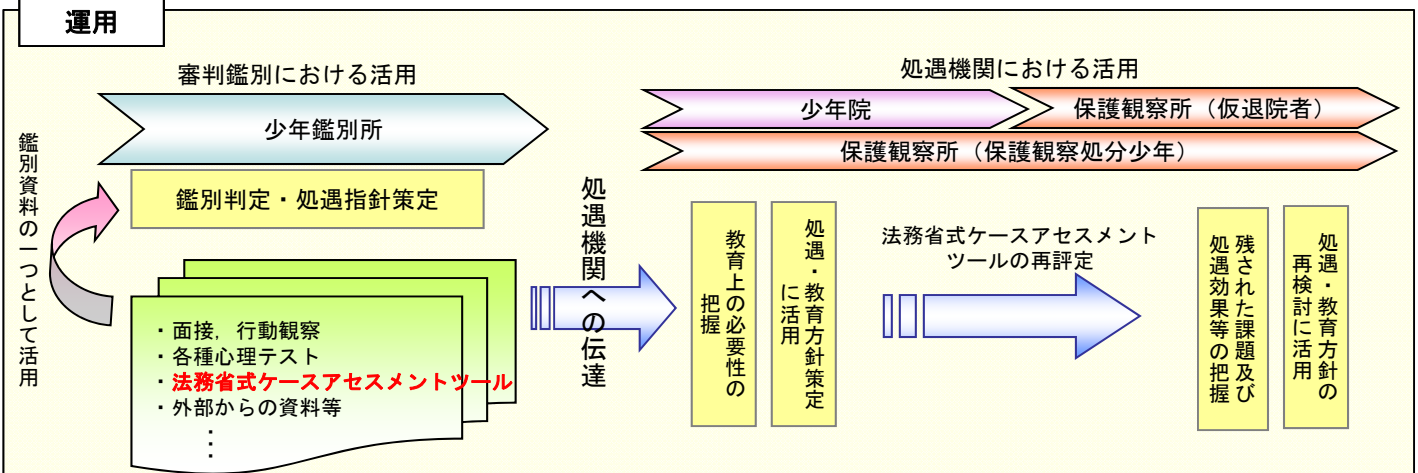


### ◆ 結果

・**プロフィール表示**・・・各領域ごとの問題性の大きさをグラフで表示  
 ・**区分表示**・・・再非行の可能性及び教育上の必要性の高さを区分で表示  
 ・**所見**・・・鑑別担当者が、処遇目標等について分かりやすく記載



## 運用



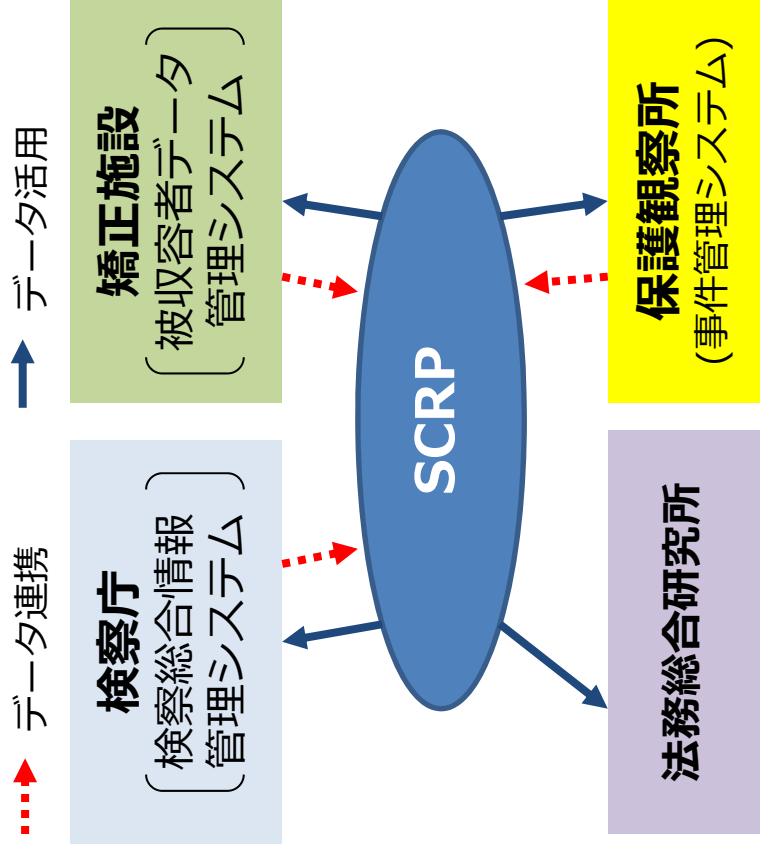
# 刑事情報連携データベースについて

(SCR: System for Crime and Recidivism Prevention)

## SCR (スクルプ) とは

検察、矯正施設、保護観察所等がそれぞれ保有・管理する情報を連携させ、**受刑者・保護観察対象者等に対する指導や再犯の実態把握、施策の効果検証**等に活用するもの。

### イメージ



### 活用方法

